

# 平成30年度 西崎特別支援学校 外部評価(学校評議員)

1～6の各項目について、いずれにか〇印を記入し、評価して下さい。

NO	評価領域	評価		感想・意見等	今後の学校の取り組み
		不十分 ←	→ 十分		
1	<b>本校の教育目標</b> 学校は教育方針をわかりやすく伝えている。		2	<p>①児童個々の実態に応じた教育ということで画一的でなく個人に焦点を当てた取り組みに対応して、且つ、具体的目標を掲げてわかりやすいと思います。</p> <p>②職員自己評価結果は昨年度とほぼ同じであり、<u>個別の教育支援計画、個別の指導計画の学年及び学部間の連携については、中学部の保護者から情報の共有及び確実な引継という意見等があることから実態を確認して改善の必要を感じます。</u></p> <p>③管理職及び学部主事の説明からは、各学部とも教育目標を踏まえた取組がなされていると思うが、<u>地域と連携した教育課程の編成等、カリキュラムマネジメントの視点(社会に開かれた教育課程等)での周知や理解の促進を保護者や地域に今後は図る必要があると考える。</u></p>	<p>○昨年度の学校評価を踏まえ、今年度は学部間の引継について改善を試みる。春休みに学部間、学年間にかかわらず、個別の教育支援計画と個別の指導計画、児童生徒の実態の具体について留任する複数の職員により引継を行う。 また教育支援部主催により、幼・小6・中3の保護者を対象に進学に伴う環境の変化やその心構えについて先輩保護者と懇談する茶話会を実施している。</p> <p>○地域と連携した教育課程について推進するため、地域の社会的リソースについて情報収集を行い、本校における特色あるカリキュラムの編成を模索していきたい。</p>
2	<b>本校の教育実践</b> 学校は教育課題について適切に取り組んでいる。	1	1	<p>①授業参観の時に、題材設定し具体的に児童が見て手に触れられることができるように教材を工夫しているのを目の当たりし、児童の意欲等の引き上げに配慮した取り組みがなされているのを感じています。</p> <p>②子供たちの能力や資質により、教材の工夫がなされ根気強くわかりやすい興味関心を引きつける授業が行われていると思われませんが、職員相互の共通理解や指導の連携についての自己評価結果は、昨年度とほぼ同じであることから職員相互の意見交換の機会を多くする等の努力が必要であると感じます。</p> <p>③教育実践(授業作り・学級経営等)では、教職員の連携が重要である。特に<u>個別の教育支援計画や個別の指導計画をツールとして、幼児児童生徒個々の教育的ニーズに応じた実践を行うことで、学校における教育課題の改善を図ることが可能となるのではないか。</u></p>	<p>○教科項目1と同様、職員間の引継や意見交換の場の必要性がある。直近の対応策としては、春休みに学部間の引継日時を設定し、実態や支援の手立て等の引継に万全を期す。 その際、中心となるツールとして「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を機能させ、引継内容に遺漏がないようにする。</p>
3	<b>本校の健康・安全</b> 学校は健康・安全教育に取り組んでいる。		2	<p>①保健計画や安全計画がなされており、具体的に毎月実施内容が細かく計画されており、それに沿った対応策は施されていると感じています。</p> <p>②心身の健康については、保護者との連携が大変重要であるので、行事や連絡帳等を活用して職員から保護者への積極的な声掛けを行い、<u>気軽に相談できる環境の構築に努めてもらいたい。安全については、引き続き不安全事故要素を把握して迅速な対応をお願いします。</u></p> <p>③施設・設備が不十分な件においては安全面への配慮など工夫をしなければならぬが、教職員全体で幼児児童生徒の個々の特性を踏まえた危機管理意識を持つことが大切である。幼児児童生徒にも「なぜ健康・安全が必要か」を、それぞれの発達段階や障害の特性に応じて指導していく必要がある。</p>	<p>○保護者からどこに相談して良いか分からないとの声をうけ、「西特ハンドブック」の周知を再度図るとともに、様々な不安や疑問を担任や教育支援部を窓口、気軽に相談できることを周知したい。また、あらゆる場面で第一の窓口となる担任は、保護者にとって声をかけやすい状況を作るよう促す。</p> <p>○学校全体としての安全教育、健康教育は推進しているが、その指導内容を児童生徒の実態に応じて定着させるための取り組みに不足を感じる。今後カリキュラムマネジメントの視点も取り入れながら、計画的に学級や授業での指導内容に落とし込めるよう検討していく。</p>

4	<b>本校の環境美化</b> 学校は校舎内外の環境美化に取り組んでいる。		3	1	①美化については玄関前は花があふれ来校者を歓迎する雰囲気がありますが、建物が30年以上経過していることと、校内敷地が広大であることも併せ、隅々までの美化は難しいと理解しています。 ②西崎おそうじ隊などの楽しく積極的に清掃活動ができるよう工夫されている。保護者及び生徒のアンケート設定項目に環境美化の項目を追加してもらいたい。 ③幼児児童生徒が「自分たちの学校をきれいにしよう」という意識を持つための取組の工夫があるとよいのではないか。教職員のみならず幼児児童生徒が学校の環境整備と美化のため、主体的に動けるよう授業や学級経営を工夫していくことも大事だと考える。	○次年度の評価項目に校内美化に関する内容を追加すること検討したい。 現状として本校の環境教育は、一人一鉢運動や高等部のトータルクリーン班の取り組み、台風後の全体清掃の他、教育活動全体を通して行っているが、今後更に児童生徒が主体的に環境美化に取り組める学級運営や授業づくりについて検討、推進していきたい。
5	<b>本校の進路指導</b> 学校は適切な進路指導に取り組んでいる。	1	2	1	①高等部2年生時から校外への実習を行っており、特に3年時にはその子に合った事業所探し、進路部全体で取り組んでいることを痛感しました。卒業時にはほぼ全ての生徒の進路が定まっており高評価に値すると思います。 ②キャリア教育及び進路指導の職員自己評価結果について、「あまり達成できていない」と回答した職員に内容を確認して改善する必要があると思います。 ③進路指導は幼稚部の段階から進めていくことが大切である。キャリア形成の視点を踏まえ、各学部で発達段階を考慮し、各段階で身につけるべき事を明確にした進路指導についてきちんと考えていく必要がある。 ④制度や法律は常に変化しているので、最新の動向を知る機会が必要であると思います。(教員、保護者共)	○過去の指定研究の成果を受け、各学部における児童生徒の発達段階に応じたキャリアプランマトリクスを設定しているが、本研究から時間がたち、学級経営や授業内容に活用する機会が減少していると言える。 次年度再度キャリアプランマトリクスの内容を職員間で確認し、実践につなげるよう、年度当初の説明等で促す。
6	<b>本校のPTAや地域との連携</b> 学校はPTAや地域と連携し、円滑な学校運営に取り組んでいる。	1	2	1	①PTAとの連携は行事等を通じて行われているのを感じていますが、地域との連携については、私の努力不足で内容がよく分かりにくいように思いました。 ②PTA行事は、職員と保護者及び保護者間の情報交換の場でもあると思うので、仕事や家事等で忙しい中、一人でも多くPTA行事へ参加できるように引き続き努めていただきたい。 ③地域を積極的に活用し、教育実践や環境整備、進路開拓等を進めていくためには、日頃から関わり、障害理解の促進や関わり方について周知をしていくことが大切。授業や生徒会活動、地域行事への参加など教育課程や教育計画に上手に取り入れる工夫が必要だと考える。	○本校における地域連携は当初からの課題であった。西特祭り等の行事では地元自治会のみなさんの参加はあるものの、今後は、学校評議員の依頼、避難訓練における地域連携、地域のリソースを活かした交流授業等について検討を進めていきたい。
7	その他	○12ページ自己評価(職員用)の集計数欄では、5(無)が記載されているが【評価価値】の凡例には5「無」の記載がない。また、保護者及び生徒アンケートの凡例は、「無:無回答」と記載されているので、こちらに統一してはどうでしょうか。→ 統一の方向で調整します。				